

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中井 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

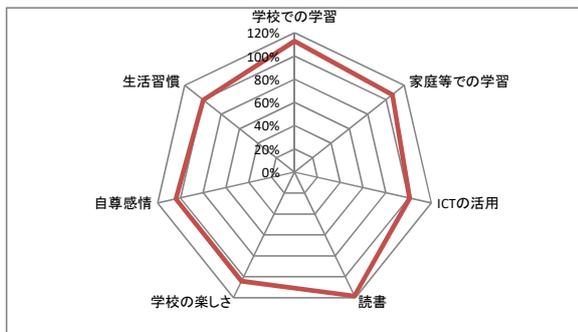
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全14問中12問で正答率が全国平均を上回っている。特に記述式の問題では、全国平均を8ポイント以上上回っている。漢字を正しく書き直す問題3問中1問で、正答率が全国平均を下回り、無回答率が他の問題よりも高かった。言語についての知識技能は繰り返し練習し、確実に習得させておく必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	提示されている文章のよさを、文章から言葉や文を取り上げて記述する問題で、正答率が低い中でも全国平均より10ポイント以上上回っている。	
	努力が必要な問題	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える選択式の問題では、正答率が全国平均を5ポイント近く下回った。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全16問中14問で正答率が全国平均を上回っている。正答率が下回っている問題でも、全国平均との差は2ポイント以内であった。思考・判断・表現を問う問題7問全てで正答率が全国平均を上回っているが、そのうち3問は全国平均より10ポイント以上高かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量が比例関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題で、正答率が全国平均より16ポイント以上上回った。	
	努力が必要な問題	百分率で表された割合を分数で表す問題は、正答率が全国平均を1.7ポイント下回った。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全17問中14問で正答率が全国平均を上回っている。正答率が下回っている問題でも、全国平均との差は3ポイント以内であった。全体的に無回答率も低く、無回答率が全国平均を上回っているものでも、その差は0.2ポイントであった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題で、正答率が低い中でも全国平均より10ポイント以上上回った。	
	努力が必要な問題	メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加えるのに必要な水の量を選ぶ問題は、正答率が全国平均を2.9ポイント下回った。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・スマホや携帯電話の所持率は高いが、多くの児童が使い方についての約束を守っており、2時間以上接触している児童の割合は全国平均よりも低い。 ・携帯電話やスマホでSNSや動画視聴を4時間以上している児童の割合が全国平均よりも高い。 ・将来の夢や希望をもっている児童は全国と同じくらいいる。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせる必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・質問紙の読書に関するポイントはかなり高いが、国語の読むことに関するポイントの全国との差があまり大きくない。登場人物の関係や気持ちを捉えるなど、学習の中で「読み取る」ことの手立ての工夫や取組の見直しが必要である。また、漢字や計算などの基礎的な内容も朝学習の時間等を活用し繰り返し取り組んでいく。 ・授業でICT機器の使用は増えているが、紙の資料やノートと同様の学習ツールとして効果的な活用を工夫していく必要がある。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を毎日食っているに肯定的な回答をした児童のポイントが全国平均よりも低い。児童や保護者に朝食の大切さを啓発していく必要がある。携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方については、年間を通じて計画的に家庭とも連携をとりながら、規範意識育成の取組を進めていく。また、各学年のキャリア教育を見直し、各学年段階に応じたつながりのあるカリキュラムづくりをしていく。
--